

平成27年度 学校法人 三幸学園 大宮医療秘書福祉専門学校

自己評価および学校関係者評価報告書

自己評価報告責任者:副校長 前川 祐一

学校関係者評価報告責任者:学校関係者評価委員長 佐藤 弘一

1. 学校の教育目標

学園のビジョン「人を活かし、日本をそして世界を明るく元気にする」、ミッション「人を活かし、困難を希望に変える」のもと、医療分野の学校として「医療を通じて日本を明るく元気にする」というビジョンを掲げている。また「技能と心の調和」を教育理念とし「素直な心、感謝の気持ち、高い意欲を持ち続け、自ら考え、自ら行動することで、社会に貢献する人材」、医療分野として「相手のこうして欲しいを理解し、考え動ける人材」を育成する人物像とし、専門学校として社会・業界に求められる人材の育成を進めている。

2. 27年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

「生徒満足度の向上」を学校目標とし、授業・学校行事・資格取得・就職等の学校生活において、目指す人物像を明確にし、その目標に向かって向上し続ける人材を育成していけるよう、取り組んでいく。

具体的な数値目標として

- ・退学目標 5.0%未満
- ・精皆勤率目標 59.5%以上

を目指していく。

<重点施策振り返り>

・退学率については 5.0%と目標を達成することが出来たが、精皆勤率については 29.5%という結果になり、改善が求められる。また、卒業時の生徒満足度も向上に向けて、改善の努力が必要であると考えられる。

3. 評価項目の達成及び取組状況

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか (専門分野の特性が明確になっているか)	④ 3 2 1
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4 ③ 2 1
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	4 ③ 2 1
各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけら	④ 3 2 1

れているか	
-------	--

(1). 教育理念・目標

① 課題

- ・浸透するための継続的な発信が十分にできていない

② 今後の改善方策

- ・在校生には、HRや掲示物などで継続的に発信をしていく。
- ・保護者については、入学前の説明時から、入学後も発送物等にて発信をしていく。
- ・外部には、訪問時に方針のご説明を行い、教育方針の浸透を図る。

③ 特記事項

- ・特になし

【委員のコメント】

- ・入学当初の研修で学んだが、卒業時まで継続的に意識することが出来ていなかった。
- ・掲示物があることは認識していたが、内容の把握は出来ていなかった。
- ・教育理念の浸透も必要だが、資格取得後に、その資格を活かしてどう働けるかが重要
- ・患者対応ができるコミュニケーション能力が重要であり、即戦力になる。また、採用試験時に自分の良いものが発揮できるのは、働き始めてからも発揮してくれるものであると考えている。
- ・今後も“人間性”の向上に力を入れて行く。

(2). 学校運営

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1			
	目的等に沿った運営方針が策定されているか	4	③	2
事業計画に沿った運営方針が策定されているか	4	③	2	1
運営組織や意志決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4	③	2	1
人事、給与に関する制度は整備されているか	④	3	2	1
教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4	③	2	1
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4	③	2	1
教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4	③	2	1
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4	3	②	1

① 課題

- ・教育活動に関する情報公開が少ない
- ・業務を遂行するにあたり、効率的に行うことができていない

② 今後の改善方策

- ・教育活動に関する情報公開を行う
- ・業務の効率化を図る具体的な策の提示や時間管理を行い、教員の労働時間短縮を目指す

③ 特記事項

- ・特になし

【委員のコメント】

- ・いつも遅くまで学校におり、忙しそうな印象がある。
- ・医療専門職は時間に厳しく、また元々残業がないイメージで働いている。また、長時間労働で疲れている状態での勤務により出るミスが非常に怖いため、必ず休日の取得をしてもらっている。
- ・業務の整理・バランスを取ることが必要。
- ・教員数の問題もあるのではないか。

(3). 教育活動

【評価項目】	適切:4	ほぼ適切:3	やや不適切:2	不適切:1
教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4	③	2	1
教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4	③	2	1
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	④	3	2	1
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4	③	2	1
関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4	③	2	1
関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか	4	③	2	1
授業評価の実施・評価体制はあるか	④	3	2	1
職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	4	③	2	1
成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	④	3	2	1
資格取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	④	3	2	1
人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	4	③	2	1
関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含め)の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	4	③	2	1
関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4	③	2	1
職員の能力開発のための研修等が行われているか	4	③	2	1

① 課題

- ・医療機関との産学連携が進められていない
- ・現場で生かせる知識・技術の提供をしているものの、資格取得のための内容になっている点がある

② 今後の改善方策

- ・現在の医療機関が求める実践力を身につける教育の展開をしていけるよう、医療機関からの情報収集と、教員への共有・実行を行っていく。

③ 特記事項

- ・特になし

【委員のコメント】

- ・医療機関との産学連携が難しく、産学連携としては実習でしか医療機関との連携がとれていない。
- ・現場では医療事務員の採用は、経験者を採りたいと思っており、現場経験をしている卒業生を紹介してくれるのであれば、医療機関ともより繋がりがやすくなるのではないかと。
- ・医療事務の基礎である保険の知識をもっとつけておけば良かったと感じている。しかし、車いすの実習などは現在現場で使用することがあるため、役に立っている。
- ・現在は、医療機関のほとんどが電子カルテを導入しているため、紙のカルテを勉強させるのではなく、大手メーカーの電子カルテや医療事務コンピュータに触れ、一連の流れを授業でやっておいた方が現場で生かされる。
- ・全国の姉妹校で、現在カリキュラムの変更を検討しているため、参考にさせて頂く。

(4). 学修成果

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1			
	就職率の向上が図られているか	4	③	2
資格取得率の向上が図られているか	4	③	2	1
退学率の低減が図られているか	4	③	2	1
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4	③	2	1
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	4	③	2	1

① 課題

- ・資格取得率の向上
- ・退学率の低減
- ・卒業生状況の把握

② 今後の改善方策

- ・資格取得率の向上に向けた教科担当教員同士の情報共有、資格取得率の高い姉妹校への取り組みのヒアリングと実施。
- ・担任・教科担当間の生徒状況の共有と、統一認識の元での対応
- ・実習関係・求人依頼などを絡めた卒業生訪問での状況確認

③ 特記事項

・特になし

【委員のコメント】

・1 年次で受験した資格はほとんど取得することが出来た。それは、検定前のサポートのおかげだと痛感しており、有効なサポートだったと感じている。

・履歴書の資格欄は、Word・Excelなどの一般的なパソコン操作ができるか、またビジネスマナーなどの資格を取得しているかなどを見ている。

(5). 学生支援

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1			
	進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4	③	2
学生相談に関する体制は整備されているか	4	③	2	1
学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4	③	2	1
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4	③	2	1
課外活動に対する支援体制は整備されているか	4	③	2	1
学生の生活環境への支援は行われているか	4	③	2	1
保護者と適切に連携しているか	4	③	2	1
卒業生への支援体制はあるか	4	③	2	1
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4	③	2	1
高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4	③	2	1

① 課題

- ・担任中心の就職支援
- ・採用試験は受けているが、内定が出ない生徒へのアプローチ・アドバイス
- ・保護者への生徒状況連絡のタイミング

② 今後の改善方策

- ・就職担当者からの効果的な対策の発信
- ・保護者への生徒状況の共有頻度を上げる

③ 特記事項

・特になし

【委員のコメント】

- ・ホームルームの後などに、質問のある生徒が一気に担任の所に行くため、ゆつくり相談する時間がなかった。
- ・求人の数は十分にあったと感じる。

- ・学校求人閲覧サイトは、ほぼ全員が活用していたと思う。
- ・医療機関の人事が個別の相談に乗ることもできる。全体的な講話だけでなく、個別相談の時間を設けるなどしてはどうか。
- ・本人の希望を分かっただけで、支援していく必要がある。
- ・放課後などに個別相談の出来る期間を設けるなどし、相談しやすい環境を作ってはどうか。

(6). 教育環境

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1			
	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	④	3	2
学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4	③	2	1
防災に対する体制は整備されているか	4	③	2	1

① 課題

- ・備品の不具合等による授業への影響
- ・避難場所や災害時マニュアルの浸透、防災意識を高めるような取り組みができていない

② 今後の改善方策

- ・備品管理の徹底
- ・避難場所や災害時の対応などの周知の強化
- ・学生へ防災意識を高めるよう定期的にHR等で案内を実施していく

③ 特記事項

- ・特になし

【委員のコメント】

- ・防災対策として、全教員に避難器具や避難経路、避難場所の周知を夏の会議の際に行う。

(7). 学生の受入れ募集

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1			
	学生募集活動は、適正に行われているか	④	3	2
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4	③	2	1
学納金は妥当なものとなっているか	4	③	2	1

① 課題

- ・リアルな学校生活を感じてもらうための学校見学への促しが十分にできていない

② 今後の改善方策

- ・在校生がいる学校を見てもらえるよう、ホームページやオープンキャンパスでの告知を行っていく

③ 特記事項

- ・特になし

【委員のコメント】

・専門学校に入れば、就職までサポートしてくれると思い、就職率やサポート体制が魅力に感じた為、入学を決めた。

・遠方からの入学だったため、地元への就職も検討したが、地元(東北)では求人がないため、首都圏での就職を考えるようになる。

・東北は離職率も少なく、求人がなかなか出ない地域の為、地元の学校へ進学しても就職でないケースもあり、それらを含めると専門学校へ進学する際に上京した方が、就職がきちんとできる。

(8). 財務

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1			
	中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	④	3	2
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	④	3	2	1
財務について会計監査が適正に行われているか	④	3	2	1
財務情報公開の体制整備はできているか	4	③	2	1

① 課題

- ・財務情報の公開体制の整備

② 今後の改善方策

- ・学園内での統一した公開体制の確立

③ 特記事項

- ・特になし

【委員のコメント】

・今後も適切に運用を行っていくことを確認された。

(9). 法令等の遵守

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1			
	法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	④	3	2

個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4	③	2	1
自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4	③	2	1
自己評価結果を公開しているか	④	3	2	1

① 課題

- ・個人情報の管理の徹底
- ・問題点の改善

② 今後の改善方策

- ・本校問題点の教職員への周知と、取り組みに対する改善の実施
- ・個人情報管理のセキュリティを強化

③ 特記事項

- ・特になし

【委員のコメント】

・昨今、コンプライアンスがより叫ばれている。学校という特性上、生徒の個人情報が多くあるため、今後も十分な注意をしていく。

(10). 社会貢献・地域貢献

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1			
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4	③	2	1
生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	④	3	2	1
地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか	4	3	②	1

① 課題

- ・地域貢献、社会貢献に関する活動ができていない

② 今後の改善方策

- ・医療業界に繋がるボランティア等の更なる充実を図る

③ 特記事項

- ・特になし

【委員のコメント】

・医療事務関係のボランティアは難しいのではないかと。医療事務の仕事の中に、ボランティアで出来るものが

なく、社会貢献としてできるボランティア自体が少ないと感じる。

・大きな範囲で考え、介護業界と繋がってみてはどうか。医療機関でもさらに高齢の患者が増える中で、介護のボランティアを通して、高齢者の方との関わり(コミュニケーション等)を学んで行くと、就職後にも役に立つ。